

オースティン・テイト

オースティン・テイトは、人工知能応用研究所（AIAI）の所長でありエジンバラ大学の知能知識ベースシステムのパーソナルチェアの地位も保持しています。



オースティン・テイト教授はエジンバラ大学で知能知識ベースシステムのパーソナルチェアの地位を保持しており大学内の人工知能応用研究所（AIAI）の所長です。1984年にAIAIが結成されるのに荷担しそれ以降、時代を追って人工知能と知能知識システムの技術と方法を世界中の商業界、政府、学会内に適用移行させるための努力を払ってきました。テイト教授は最初1967年にリーズ大学の夜間クラスでコンピューティングを学びました。その後1972年にランカスター大学にてエジンバラ大学のドナルドミッキー教授とともにおこなった学部生対象のプロジェクトGraph Traverser searchの研究からコンピュータスタディのファーストクラスオナーズ（最優秀荣誉賞）を与えられました。1975年には、コードの解読者でありコンピュータのパイオニアとも言えるフレッチレイパークのアランチュウリングといっしょに仕事をしたことのあるドナルドミッキー教授の元にエジンバラ大学から機械工学の博士号を取得しています。

テイト教授はエジンバラ・ロイヤルソサイティ（スコットランド・ナショナルアカデミー）のメンバーでありその他、AIアメリカン・アソシエーション、英国コンピュータ・ソサイティ、英国インターナショナル・ソサイティ、国際的ワークフロー管理連合等、いくつかの機関団体のメンバーでもあります。彼は専門的な公認エンジニアです。テイト教授はデータベースとソフトウェア・エンジニアリングの経歴があります。1970年代にFortran Interfaceをデザインし、商業的IDMSデータベースに実現、維持させたチームのリーダーもつとめました。1980年初期にはエジンバラ地域コンピューティングセンターにおいてエジンバラ大学のマイクロコンピュータ、オフィスシステム、パーソナルコンピュータ・コミュニケーションサポートチームを結成しました。

テイト教授は知能知識ベースプランニングとアクティビティ管理システムの国際的な権威者であり産業界や政府機関と共同でイギリス、ヨーロッパ、日本、アメリカで人工知能技術を展開させてきました。彼はプロセス制御言語とサービス用W3Cオントロジーウェブ言語の研究で米国商務省標準技術局（NIST）との共同研究を含めた多くの標準化活動に加わってきました。多数の機関に技術的洞察のサポートを提供します。

今では広く展開され使用されているInterplan、Nonlin、O-Planプランニングシステムズの階層的プランニングとconstraint satisfactionにおいて初期のアプローチを開拓しました。彼のNonlinに関する初期のプランニングの研究は階層的タスクネットワークプランニングについてのテキストブックの基本として使われています。また、ノード（the modal truth criterion）の部分的に整備されたネットワーク中のある時点で命題の真実性を構築する時のアルゴリズムに使われています。Nonlinは初期AIプランナーの基礎としてNASAジェット推進研究所で使用され、O-Planの中に改良されたものは欧州宇宙機関のArianeロケットのアセンブリー、調整、検証のために使用されたOptimum-AIVプランナーのためのコアデザインとなりました。

テイト教授の研究分野は豊富なプロセスの使用とタスクプランニングとプロセス管理をサポートする表現を利用することのできるツールに加えて、プラン表現です。彼のEI-XEと呼ばれる最近の研究は特に緊急対応時にcooperative taskを動作するための人間とシステムエージェント間のSupporting collaborationにより関係したものです。

O-Plan及びI-X/Planプランニングとアクティビティ管理研究は長い期間にわたって連邦国防高等研究プロジェクト局、米空軍研究所(Rome, NY)、英国防衛科学技術研究所（DSTL）とその他の機関によってサポートされてきました。研究内容には非戦闘員後送、航空作戦プランニング（ペンタゴンとの共同研究を含む）、米陸軍小規模作戦、緊急対応、救援等のアクティビティのためのコマンド、プランニング、コントロールが含まれます。イギリス内および国際的なプロジェクトの数々は捜索と救助共同作用、兵員回復と多国籍連立あるいは共同軍プランニングと処刑救援にかかわりました。

テイト教授のチームは世界中の政府とビジネス界から研究助成金を得ています。プランニング・イニシアチブ、エージェントベースのコンピューティングとSemantic Webプログラムのような連邦国防高等研究プロジェクト局(DARPA)援助の最先端のプログラムのいくつかに携わってきました。彼はイギリス内で助成される1千万ドル6年間先端知識技術総合研究共同体のエジンバラ主任研究者です。また、共同平和維持作戦で多数エージェント技術のデモンストレーションを行った4カ国、30数機関を巻き込んだ国際合同エージェントeXperiment(CoAX)プロジェクトも先導しています。

テイト教授は高く評価されているIEEEインテリジェントシステムズ学術誌の準編集主任です。更に、上級顧問委員会のメンバーでありその他のいくつかの学術誌の編集委員会のメンバーでもあります。これまでエジンバラで開催されたIJCAI-05のローカル手配チームとなったことを含めて主な人工知能学会の組織や国際的なイベントに関わってきました。論文も幅広く発表しており世界中に人工知能技術の応用を促進しています。